

I. 暮らし全般・エネルギー

この分野は、「ライフスタイル」に関わる要素のうち、暮らしに対する根本的な価値観や生き方、エネルギー利用、移動手段など日常生活におけるあらゆる環境配慮に関する行動・行為を対象としています。

こんな環境や社会にしたい！！



環境まちづくりビジョン

【暮らし全般】

便利さを追求せず、
環境のことを考えて、できることから実行している

【生き方】

きれいな空気の中で、
おいしい水や食べ物に恵まれて
幸せな時間を過ごしている

【エネルギー】

省エネの生活を心がけ、
地球温暖化の防止に協力している

【交通手段】

自転車などの環境負荷の少ない
移動方法を選択している



環境指標と数値目標

(詳細は資料編参照)

No.	指標名	現状値 [H.14]		短期目標 [H.20]	長期目標 [H.35]
I 1	環境にやさしい行動実行率 (10の行動)	40 ~ 68	%	各行動実行率 5%向上	各行動実行率 10%向上
I 2	エコライフ宣言者数	-	人	500	3,000
I 3	1人1日当たりの水道使用量	327	L	310 (5%減)	295 (10%減)

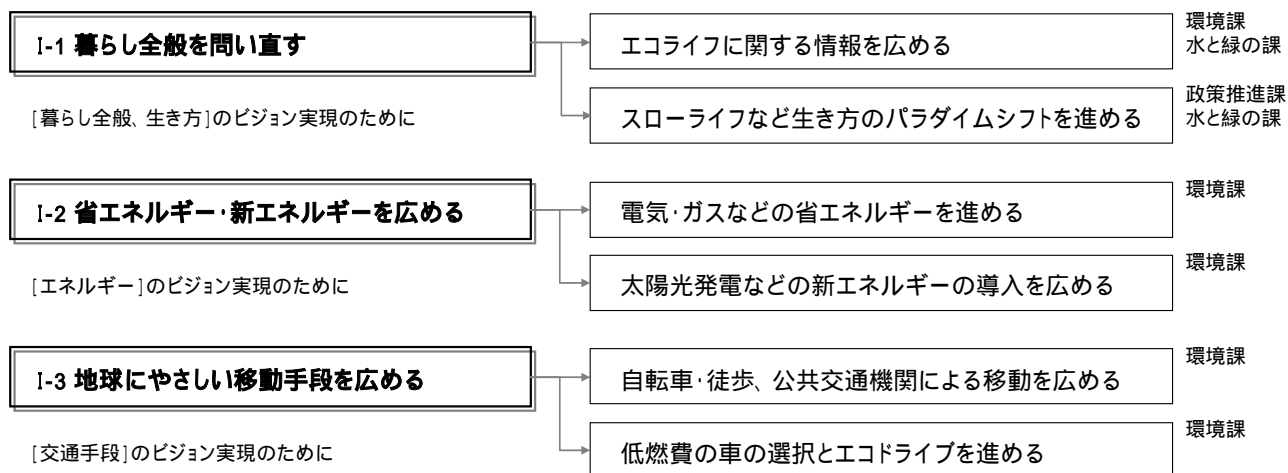
[検討・把握する環境指標] 1人1日当たりの電気使用量、ガス使用量、ガソリン使用量、太陽光発電導入世帯数

「環境まちづくりビジョン」を実現するためにこうしていこう！



環境まちづくりプログラム

施策の体系



I-1 暮らし全般を問い直す

あわただしい生活を見直し、ゆったり豊かな生活を楽しもうというスローフード³⁴、スローライフ³⁵という概念が最近出てきています。こうした価値観を大きく転換（パラダイムシフト³⁶）し、自らの暮らしを環境に配慮したものとなるよう根本的に変えていくことを促進します。

[施策メニュー]

エコライフ虎の巻の作成と普及、エコ生活カルタの作成と活用

エコファミリー登録制度のリニューアル、今の生活と昔の生活を環境の面から考える機会の創出、家族で自然や環境、健康について話す時間の創出、スローライフ・スローフードなど21世紀の豊かさの提言

³⁴ 北イタリアの小さな町で生まれた、その土地の伝統的な食材や調理法を大切に、昔からの味、食の多様性を守っていこうという運動。伝統的な食材や料理の保護、質の良い素材を提供する小生産者の保護、味覚教育が3つの活動方針である。

³⁵ 現在の大量生産・大量消費型の息せき切った生活から、文化・空間・時間を味わいながら人間らしい生活を志向すること。

³⁶ 人々の考え方の根本的な変化。旧様式から新様式への劇的な交代。

1-2 省エネルギー・新エネルギー³⁷を広める

地球温暖化の主な原因は、電気、ガス、燃料などのエネルギー消費による二酸化炭素です。そのため、地球に優しいライフスタイルとして、省エネルギーを進めるとともに、二酸化炭素排出量の少ない新エネルギーの普及を進めていきます。

[施策メニュー]

省エネルギー方法の普及、省エネナビ³⁸の普及、環境家計簿の提案、省エネ生活の情報交換会の開催
自然エネルギーを気軽に体験できる機会の創出、自然エネルギーの簡易キットによるPR、太陽光等新エネルギー利用のメリット調査と普及、新エネルギー導入に対する補助制度の創設

1-3 地球にやさしい移動手段を広める

移動に伴う環境への影響は、地球温暖化、大気汚染、交通騒音など様々な面に現れてきます。特に、自家用車による移動が大きな影響を与えていることから、自転車や公共交通機関など地球にやさしい移動手段を広めていきます。

[施策メニュー]

自転車使用と車使用での環境負荷と健康の比較調査とPR、歩道・自転車道・自転車置き場の整備・充実、自転車移動のための近道の整備、自転車の乗り方マナーの徹底、レンタルリース自転車の導入、ルート・本数・料金など公共交通機関の充実、ノーカーデーの実施、イベント時のくるりんばすの無料化
アイドリングストップなどエコドライブの普及、電気自動車・燃料電池車の普及促進

³⁷ 太陽光発電、ごみ焼却排熱など従来のエネルギーに代わる再生可能、リサイクル型、高効率のエネルギーのこと。

³⁸ 家庭の電力使用量、電気料金、二酸化炭素排出量、省エネ達成率を表示する装置。目標の電気料金を上回ると警告が表示されるので、目標を持った省エネ行動ができる。